

第2回 国立の民族共生公園（仮称）基本計画検討会 議事概要

■日時：平成28年2月3日（水）14：00～16：00

■場所：北海道建設会館 9階 大会議室

■出席委員（五十音順、敬称略）

愛甲哲也、浅川昭一郎、内田祐一、加藤忠、坂井文、佐々木利和、
戸田安彦（代理：岩城達巳）、野本正博、吉田恵介

■会議の概要

1. 議事

【基本計画策定について】

1) 空間構成について

- 公園内の空間だけではなく、周辺に広がる空間やバッファゾーンの性格づけを設定する。
- JR白老駅から来園者を公園に導くための取り組みが地元自治体で必要となる。
- 公園周辺の景観については、地元自治体が景観計画の策定にあたるが、具体的な検討事項については早めに取り組む必要がある。
- アイヌの自然観の中で、自然のエネルギーをどう活用してきたのかなどは重要な視点となるため、自然エネルギーの活用についての検討が望まれる。
- 最も良好なロケーションとなるポロト湖の水辺をどの様に活用するかは重要な課題であり、どこに視点場を設けるかなどの具体的な検討が求められる。
- ポロト湖畔における眺望を阻害しないことが基本であり、そのためにも視点場の位置を明らかにする必要がある。
- ポロト湖畔の景観は重要であり、景観を阻害する高い建物などは設置しないか、湖畔からセットバックした配置にすべきである。
- 景観形成において、自然環境とともにアイヌの伝統的な生活空間の再現についても強調すべきである。

2) 施設配置計画について

- 体験交流施設の配置については、駐車場建設予定地に隣接した位置とする。
- 施設配置計画においては、施設管理者が円滑かつ効率的な管理運営や管理動線に配慮したレイアウトが前提となる。
- 施設ごとの管理を考えた場合、単に柵など区分するのではなく植栽などによる景観的なデザインで処理する方策が必要である。
- 駐車場建設予定地はイオル再生事業で植栽した箇所でも昔からの森も残っている場所もあり、樹木の残置に留意した取り組みが必要である。

3) 動線・植栽計画について

- 駐車場建設予定地から伝統的コタンまでの距離が長いこと、様々な体験を提供する集客施設や便益施設等による誘導とともに、ある一定方向を進む回遊性の動線を確保する。

- 利用動線においては、四季を通じて変化に富んだ景色や植物等が見られるポイントが重要である。
- 動線計画では、周辺の自然休養林やポイント沼等へ導く動線も考慮すべきである。
- 公園までのアクセスは非常に重要なので、自治体や国等が協力して取り組んで欲しい。

4) 今後の進め方について

- ユニバーサルデザインについては、バリアフリー、多言語化だけでなく、アイヌ語にも配慮すべきである。
- 地元自治体の地域防災計画との整合性を図る必要がある。

以 上